

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5 年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鳥栖市立田代小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策のために学習活動や行事において制限を加えることがあった。今後は、アフターコロナを視野に入れながら、より充実した活動や行事の在り方について職員間で話し合いや工夫を重ねていく必要がある。 ・令和4年度より学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを目指している。今年度はその取組を充実させ、多くの地域の教育力を学校教育へ生かしていきたい。昨年度は、地域の方々から特に児童の挨拶についてのご意見を多くいただいた。今年度は校内での取組はもちろん、地域や保護者の協力も得ながら人と人を結ぶ「挨拶」を推進していきたい。 ・昨年度は校時表を見直すなどの業務改善に取り組んできた。今年度も会議の内容精選や時間短縮、職員分担の平準化等に取り組むことにより教職員の働き方改革に取り組んでいきたい。	
------------------	---	--

2 学校教育目標	「共に学び 心豊かに たくましく 生きる」児童の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	・主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善を図る。 ・思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う。 ・特別支援教育において校内支援体制や個に応じた指導の充実を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上○校内アンケートの「みんなで学び合うこと」で、よく分かった、自分の考えが深まった。」と答える児童80%以上。	・全職員が「授業づくりのステップ1・2・3」を参考に指導方法の改善・授業力の向上を図る。 ・学力向上対策評価シートでのマイプランの成果指標達成を目指す。・授業中の、まとめや振り返りを書く活動を充実させる。 ・全職員が研究授業を公開するとともに、多くの教科の授業で対話活動を設定する。	A	・学力向上対策評価シートに示した成果指標である「授業づくりのステップ1・2・3」を参考にした指導法改善に対し、肯定的回答は91%であった。 ・上記の回答では「達成」よりも「やや達成」の割合が多いため、引き続き、取り組みを継続していく。・「みんなで学び合うこと」で、よく分かった。自分の考えが深まった。」に、肯定的回答をしている児童は92%であった。 ・引き続き、対話活動と振り返りが学力の定着につながっていくよう、共通実践として取り組む。	A	・学力向上対策評価シートに示した成果指標である「授業づくりのステップ1・2・3」を参考にした指導法改善に対し、肯定的回答は93%であった。 ・1月の校内アンケートにおいて、「みんなで学び合うこと」で、よく分かった、自分の考えが深まった。」に肯定的回答をしている児童は92%であり、中間評価時とほぼ同じであった。	A	・先生方は子どもたちのためにしっかり向き合っておられると思う。学力は学校だけで向上するものではないと思うので、家庭でも学習できるように、子どもたちの学力に合わせた自学等の取組で学力の向上、学力の差が縮まるのではないだろうかと。 ・対話活動や振り返りを授業に位置付けることは今後ぜひ続けてほしい。	学びづくり部会
●心の教育	●児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケート「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていますか」の質問で、80%以上の児童が肯定的な回答をする。	・人権週間や道徳の授業実践において、児童が人としての生き方を考えるきっかけとなる内容を盛り込む。 ・友だちのよいところや頑張りを見つける活動に取り組ませる。	B	・「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしている」と、肯定的な回答をした児童95%以上。 ・人権週間に設置し、衆が作成している教材を用いて全クラスが授業を行った。 ・児童のよいところを教師が、クラス全体に紹介した。今後、児童にもそのような活動に取り組ませしていきたい。	B	・学校生活アンケートでは、友達と仲良く過ごしている項目で95%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・友達のよい見つけの活動に取り組む、掲示したり、発表をしたりして相手に伝えていた。	B	・「ほかほか言葉を使って…」は子どもの心を育てることにつながる大切なことだと思う。 ・地域の方に協力していただき、赤ちゃん家族とふれ合う授業に取り組むのも良いのではないかと。以前、テレビで他県での取組が紹介されていた。	心づくり部会
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめの早期発見、早期対応について組織的対応ができていると回答した教師80%以上。	・気になる児童の様子やいじめの対応について、事例研修等を含めた研修や会議を毎学期行い、いじめに対する職員の意識や組織力を高める。	B	・毎週、生徒指導担当を中心に、問題事案についての報告・共有を行い、対応について検討している。 ・毎月、いじめに関するアンケートを取り、管理職や関係学年等で情報共有することはいじめの未然防止に努めている。	A	・問題事案の対応にあたっては、同学年、管理職、生徒指導担当などと連携しながら対応をしている。また、連絡会で情報共有を行い、対応を検討している。	B	・これからの「いじめアンケート」の結果を生かして、早期発見に努めてほしい。	心づくり部会
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・行事や体験活動において、活動への見通しを持たせたり、キャリアパスポート等を用いて学びの振り返りを行わせることとする。 ・児童生徒の、資質・能力を育む授業づくりを行う。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒は90%以上 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ・キャリア教育の一環として、ゲストティーチャーを招いた授業を行った。	B	・「将来の夢や希望を持っている」と答えた児童90%以上を達成することができた。 ・学年によっては、総合的な学習などで将来の夢について考えさせることができた。	B	・「先生がよいところを認めてくれる」とことは、子どもの自尊心を高めるうえでとても大切なことだと思う。 ・中学生、高校生、大学生になった卒業生で夢や目標に向かって部活や勉強を頑張っている子どもたちとの交流。数年後の自分の姿がイメージできるのではないかとと思う。	心づくり部会
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒80%以上。 ●栄養のバランスが取れる食事がわかる児童80%以上。	・栄養教諭や養護教諭と連携し、望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を発達段階に応じ行う。 ・食に関する関心を高めるために、献立等について給食委員会が毎日放送する。	B	・給食の時間に栄養教諭が巡回し、食育の指導を行っている。 ・給食委員会が、正しい箸の持ち方の指導を行ったり、人気の給食アンケートを行ったりして食への関心を高めることにつながった。	A	・給食週間に給食センターの紹介をすることで、給食への理解を深めることができた。 ・栄養教諭の支援を受けて発達段階に応じた授業を行った。給食委員会が献立・栄養に関する放送を行ったりした。「健康に食事は大切である」と肯定的な回答をした児童が95%、「バランスの取れた食事が必要である」と肯定的な回答をした児童は84%と、食に対する意識が高まった。	B	・親子レクリエーション等の時に、一緒に食習慣についての授業があればいいと思う。栄養教諭の先生から食に関してのご指導をいただくこともとても一層関心が高まると思う。 ・朝の10ロール中に、子どもに朝食食べたか聞くと、数人は食べずにいなくなるというのを見て心配している。	体づくり部会
	●運動習慣の改善や定着化 ●安全に関する資質・能力の育成	○授業以外で1日に30分間以上体を動かした児童の割合が70%以上。 ○ヘルメット所持点検・防犯ブザー所持点検において、児童の着用率及び所持率90%以上。	・体育委員会やスポーツ大会などを企画する。 ・学期ごとにアンケートを実施し、集計する。その都度呼び掛け等を行う。	A	・体育委員会がドッジボール大会を実施し、多くの児童が参加した。また、1日30分以上で遊んでいる児童が70%を上回った。 ・ヘルメットの着用率は91%、防犯ブザーの所持率は96%と、いずれも目標の90%を上回った。一方、学校によって着用率・所持率のばらつきがあるため、定期的に声掛けが必要である。	A	・体育委員会がバスケットボール大会やおにごっこ大会を企画し、多くの児童が楽しみながら体を動かすことができた。また、1日30分以上で遊んでいる児童が70%を上回った。 ・ヘルメットの着用率は92%、防犯ブザーの所持率は91%と、いずれも目標の90%を上回った。ヘルメットの着用率と防犯ブザーの所持率は、今後定期的に呼び掛けして、多くの児童が心掛けてほしいと考える。	A	・ドッジボール大会等で、外で遊ぶきっかけができた子もいるのではないだろうか。 ・ヘルメットの着用率や防犯ブザーの所持率が高いことに驚いた。これからも指導してほしい。	体づくり部会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定し守る。 ・行事や会議の精選・効率化、時間短縮を進める。 ・校務分掌の見直しを進め、職員の仕事分担の平準化を目指す。	B	・7月以降は、ほとんどの職員が時間外在校等時間の上限を遵守することができた。4月から6月までの業務や会議をさらに効率化・精選していくことが今後の課題である。 ・校務分掌の見直しや6校時力点などの取組により、放課後の時間を増やし、授業準備や事務作業等の時間を確保することができた。 ・アンケート等で80%以上の職員が「時間外在校等時間の上限45分間を遵守している。」と回答した。	B	・7月以降は、ほとんどの職員が時間外在校等時間の上限を遵守することができた。4月から6月までの業務や会議をさらに効率化・精選していくことが今後の課題である。 ・校務分掌の見直しや6校時力点などの取組により、放課後の時間を増やし、授業準備や事務作業等の時間を確保することができた。 ・アンケート等をICT活用することにより、配布・回収・集計といった業務の削減をすることができた。	B	・日々の業務が大変だと思うが、なるべく定時で帰宅できるよう、先生のサポートをできる方が必要だと思う。 ・先生方の働き方改革で協力できることは、ぜひ学校運営協議会などで投げかけてほしい。	管理職

B										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間1回以上公開した学級率80%以上。	・授業参観日における教科「日本語」の授業を全学年で公開する。 ・学級だより等を通じて教科「日本語」に関する情報を公開する。	A	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率、保護者に対する教科「日本語」に係る情報を年間1回以上公開した学級率はともに80%以上と目標を達成している。 ・今後の授業参観や学級だよりで100%を目指す。	A	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率、保護者に対する教科「日本語」に係る情報を年間1回以上公開した学級率はともに100%となった。	A	・日本語はもちろんのこと、マナー検定、地域のことや学ぶ大切な授業なので、子どもたちも楽しく取り組んでほしい。 ・教科「日本語」の公開授業は興味深く観させてもらった。今後も内容が充実発展していけることを期待している。	学びづくり部会
○開かれた学校づくり	・学校運営協議会の取組の推進 ・人と人を結ぶ「挨拶」の推進	・学校運営協議会の取組や学校の様子を毎月2～3回、学校HPで発信する。 ・児童アンケートで「挨拶を積極的に行っているか」の質問で80%以上の児童が肯定的な回答をする。	・学校運営協議会での取組を充実させ、多くの地域の教育力を学校教育へ生かす。 ・道徳や特別活動を中心に「挨拶」を課題にした授業を取り組む。	B	・コミュニティスクールとして挨拶運動推進をアピールするのほりを作成し設置した。児童会で挨拶についての話し合いをし、挨拶運動を実施した。 ・「友達や先生、地域の人自分から元氣よく挨拶をしていますか」の質問で90%以上の児童が肯定的な回答をすることができた。さらに進んで挨拶を行うことができるよう声をかけていきたい。	B	・3学期に実施したアンケートでは、「友達や先生、地域の人自分から元氣よく挨拶をしていますか」の質問に89%の児童が肯定的な回答をすることができた。 ・また、登下校中の挨拶に課題が見られる。今後も児童に挨拶の大切さについて考えさせたり、意欲喚起のための挨拶運動に取り組んだりしていきたい。	B	・コロナ禍で希薄になった人間関係が少しずつ回復していけるよう、学校、地域のイベント等で交流が必要だと思う。 ・「道徳や特別活動においても「挨拶」をテーマにした取組をされたことは、すばらしいと思う」「挨拶」に関しては、出来る子ども出来ない子どもがいるが、大きな声で「おはようございます」と声をかけているので子どもたちも少しずつ出来るようになっていくと思う。	管理職 心づくり部会
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○毎学期、特別支援教育に関する研修会、会議等を実施する。 ○特別支援教育に関する啓発授業を含め、障害者理解やUD教育を意識した授業をした学級90%以上。	・特別支援教育に関する研修会やケース会議を通して、教員の専門性の向上を目指す。 ・学活や道徳の時間の中で、障害者理解やUD教育を行い、児童相互理解を進める。	A	・通常学級のクラスで、特別支援学級担任が特別支援教育に関する啓発授業を年度初めの早い段階で行った。職員向けにも、夏休みに講師を迎えて「UDの視点を取り入れた授業づくりについて」の研修を行い、教員の専門性の向上を目指した取り組みも行った。	A	・特別支援学級の公開授業を行ったことで、支援学級担任だけでなく、通常学級担任も学習指導や支援の仕方などを学ぶことができた。 ・長期休業中にUDについて研修を行い、特別支援教育について理解を深めることができた。	A	・子どもたち一人一人に対応できる専門の先生は必要だと思った。 ・子どもたちもいろいろなお友達を受け入れられる優しい心を育てる教育を受けたいと思う。 ・「UDの観点を取り入れた授業づくり」はこれらもぜひ続けてほしい。 ・由代小には支援クラスが多く、子どもたちもそれなりに理解し、支援クラスの子どもたちとも仲良くしているように思う。	心づくり部会

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

- ・学校評価の重点取組の成果指標達成のため、3つの指導部会を中心に全職員で具体的な取組を進めることができた。指導部会での検討は、会議内容の精選や時間短縮につながっている。職員分担の平準化、次年度への引継ぎにおいても効果的であったが、部長などの一部の職員に業務が偏らないよう今後も見直しをして改善を図っていく必要がある。前年度同様もしくは前年度より下回る評価もあるが、より高い目標を掲げた結果であったり、同様の評価でも取組においては前進していたりで、成果目標はおおむね達成できたと考える。
- ・コロナ禍が一段落し、コミュニティスクールとして、地域の方とつくる活動にも制限なく取り組むことができるようになった。今年度は、どの学年においても学校職員だけでは実現できない教育活動を行うことができた。
- ・達成度がB評価の項目については、職員で知恵を出し合いながらより高い成果が出せるように推進していきたい。